

み ん な の 文 芸

引 間 豊 作 選 投稿数23句

ランドセルに馴れてゆらゆら葱坊主 金沢 青木富佐子

(評) 折り目正しい句の揃うなか、この破天荒さ加減だが捨てきれない面白さに魅せられる。通学にも慣れたゆとりにはピッカピカの頃のぎこちなさも解け、ゆらゆらの語源のとおり緩やかに、ゆつくりとあちこちに揺れる意を、一言で言えば慌てないことの象徴。そうなるで見守る葱坊主も可愛いらしく、幼い児童の対照としては恰好で、思わせぶりのない真つ当ながらの謎も解けてくる。

囀りに囲まれてをり中尊寺 皆野 大沼シヅ子 甘藷苗挿して七日の気の配り 下田野 根岸 進

藤咲いて風むらさきに過ぎにけり 国神 松岡 千恵 乱れ咲くポピーの花や風かほる 下田野 植木 豊子

碧さわむ武甲山の嶺の梅雨ぐもり 下田野 藤原 道男 濯ぎもの乾かぬ幾日走り梅雨 三沢 新井 叶子

橋下に稚魚のひと群溪若葉 下田野 沢 新緑の大宙を舞ふ鳶一羽 下田野 佐藤 清子

新調の日の香付きたる夏帽子 三沢 新井 民子 老鶯の光りて沈む山の寺 金崎 設楽 武子

単衣着て母の香に似し山の風 下田野 沢 芍薬の大輪咲きや立姿 三沢 沢野 恒平

しげく来て巢立ちを誘う親燕 三沢 真下 杏子 紫陽花や俳句に扮し咲き誇る 下田野 藤田 稔

カナで引く外国語辞典を愛用し日々のニュースに挑みし吾は 皆野 金子善次郎

吾が母も同じ思いに見つめしか遊べる孫の項の窪み 下田野 中田 久恵

晴れ残る光り尊し梅雨の入仄かな明かし横田夫妻に 上田野 沢 四方田利男

アスベスト健康被害大にして身寄に一人胸痛みたり 皆野 塩田 千代

厳しさを心し孫は美容師の道まっしぐら輝きて見ゆ 皆野 新井 愛子

生くるものいづれ逝く身と知りつつも末期の水を与ふ手の震へり 三沢 新井 叶子

外壁の精穀所なる古き字は去りし昔の我が家の思い出 皆野 根岸 静子

舅が守り夫の継ぎたる山畑いまわれのみとなりて草刈る 三沢 真下 杏子

茶の間から眺める池の上に咲く記念のつつじ三十七年 皆野 吉岡 ヨシ

新聞をレンズを借りる社会面インサイダーの株よ涙よ 下田野 藤原 道男

緑陰に郷土の画家の作品展幽雅な世界にしばし浸りぬ 三沢 新井 民子

芍薬は散りべくして咲き充ちぬ紅ぞ明るき吾を酔はしむ 金崎 山田 雅子


クラス会前回の彼何故見えぬ気になる心も歳の重ねか 野巻 町田 忠次

早朝の庭に見つけし落し文解けば山風絡みくるなり 皆野 笠原三江子

投稿数16首


俳句・短歌を募集 (8日必着) 作品には、ふりがなをつけ、住所・氏名を明記して企画課へお寄せください。1人1句、1首に限ります。

お昼のサイレンが



メロディー

に変わります



曲名は「大きな古時計」で、7月15日(土)からの予定です。

なお、火災のサイレンは今までどおりです。